

取扱説明書



油圧フロアージャッキ 3t

注文コード：19263877

このたびは、油圧フロアージャッキ 3tをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。また、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

1 安全にお使いいただくために

ここに書かれた注意事項は、人体への危害や財産への損害を未然に防止するための内容です。
いずれも安全にお使いいただくためには重要ですので、必ずお守りください。



危険

この表示内容を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめています。



警告

この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は、死亡や重傷などの重大な傷害に結びつく可能性があります。



注意

この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

ご使用上の注意

【はじめに】 誤った使用方法により人的傷害や製品の破損、その他の物的損害が生じた場合、一切の補償、責任を負いません。
また、本製品の分解や改造、修理は、絶対に行わないでください。



危険


- 本製品は自動車のタイヤ交換や整備のためのものです。本来の用途以外で使用しないでください。また、本製品を絶対に改造しないでください。
- 自動車をジャッキアップ・ジャッキダウンさせる際は、車体の下や周りに人がいないこと、他の車両や工具、部品がないことを確認してから作業を行ってください。また、ジャッキアップ中に車両の下へ手、足、身体を入れないでください。ジャッキを下げる際も車両の下、周囲に人や物がないことを確認してください。
- ジャッキを設置する際は使用中に絶対にジャッキが外れない部分に設置してください。ジャッキアップしている対象物を破損させたり、対象物が落下するなどの危険性があります。
- **本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態のまま保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドを2個ご使用ください。**
- ジャッキを使用する前に負荷のない状態でジャッキアップテストを行ってください。
- 最大荷重(3t)を超える負荷で使用しないでください。
- **安全バルブは適正な荷重になるように出荷時に調整されているため、絶対にさわらないでください。**
- ジャッキアップした状態で車両から離れないでください。
- 安全のため、別売りのジャッキスタンドで支えながら作業してください。

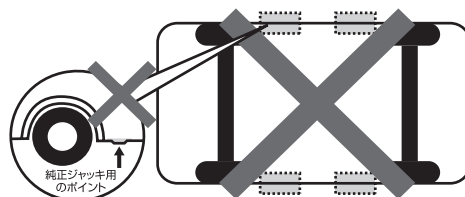


警告

- 本書をよく読み十分に理解したうえで使用してください。本書に記載の注意事項を必ずお守りください。
- 本製品は自動車整備に関する一般的な知識を有する方が使用することを前提に作られています。
- ジャッキに異常が発生した場合(オイル漏れ、変形など)、使用をただちに中止して、異常箇所の修復を完全に行うまで使用せず、モノタロウお問合せ窓口までご連絡ください。そのままご使用になった場合、重大な事故につながり大変危険です。
- ジャッキアップする際は必ず平らで固い路面の上で行ってください。傾斜地や凹凸のある地面、柔らかい地面では使用しないでください。
- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。
- ジャッキアップする前に、必ず車のサイドブレーキを引き、ジャッキアップしない方のタイヤに輪止めをしてください。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店などへ問合せ、必ず事前に確認してください。

必ずジャッキポイントが適切な位置が確認してからジャッキアップしてください。また、ジャッキポイントがわからない方は、使用前に販売店および整備工場で確認してください。

★純正ジャッキ用のポイント(右図  部分)で本製品を使用すると、車両を破損させるおそれがあります。このジャッキポイントでの使用は絶対におやめください。



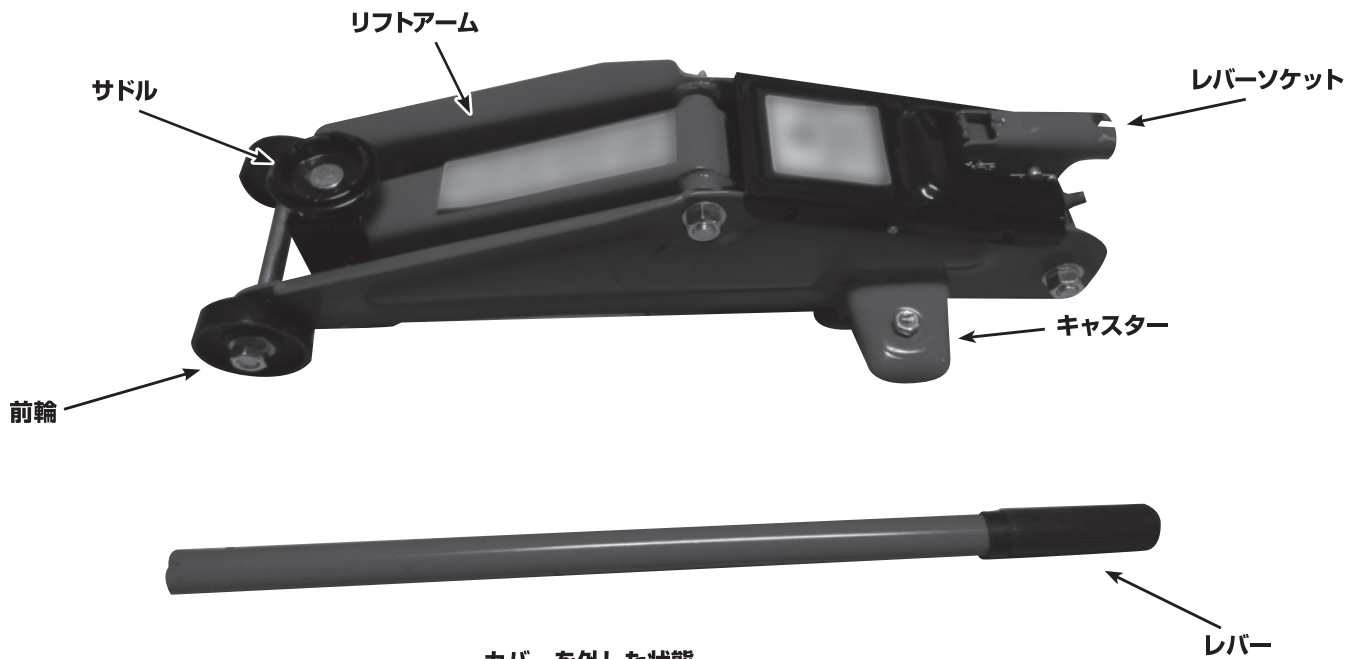
- 電子制御サスペンション車の場合は、必ず自動車に添付の取扱説明書を確認してからジャッキアップしてください。
- 車両指定のジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキポイントの形状とサドルの形状が合っているかを必ず確認してください。形状が合わない場合に無理にジャッキアップするとジャッキポイントが破損するおそれがあります。
- ジャッキアップやジャッキダウン中にジャッキアップした物を揺らしたり、力を加えたりしないでください。また、レバー以外の場所には絶対に触れないでください。
- ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがずれることがありますので、時々確認しながら作業を行ってください。
- ジャッキを下げる際は、必ずゆっくりとレバーを回してリリースバルブを緩めてください。速く緩めると車両が急に降下して大変危険です。
- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。



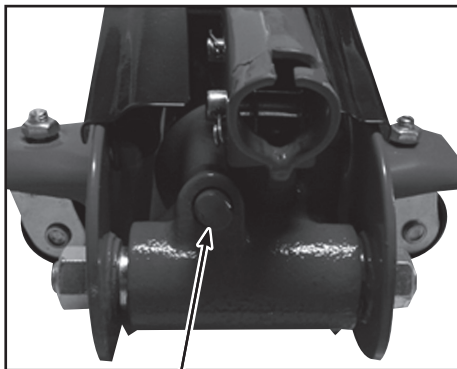
注意

- 2台以上の複数のジャッキを同時に使用しないでください。
- ジャッキを持ち運ぶ際や、ジャッキの上げ下げの際に、ジャッキの可動部分で指などを挟まないよう注意してください。
- ジャッキアップする時以外はレバーを本体から外しておいてください。
- 購入時はリリースバルブは少し緩んだ状態です。

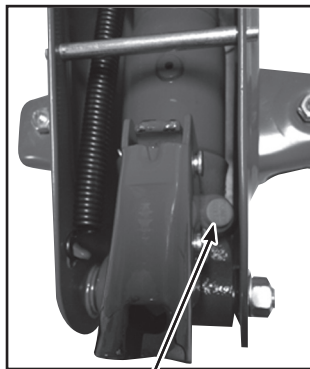
2 各部の名称



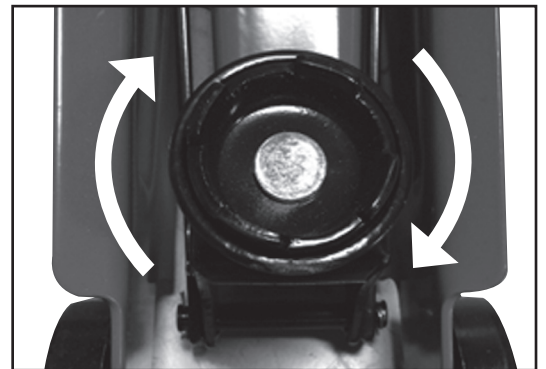
カバーを外した状態



リリースバルブ



安全バルブ (DO NOT ADJUST)
※絶対に触らないでください

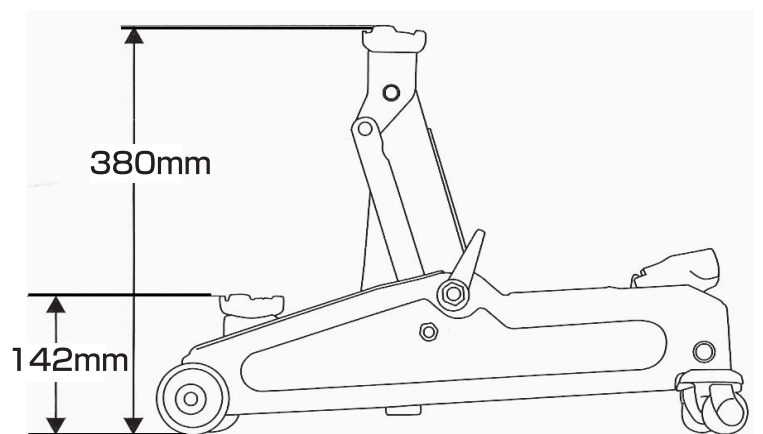


サドルは360度回転が可能

3 製品の仕様

ジャッキ最大耐荷重	3t
最縮長	142mm
ストローク	265mm
最伸長	380mm
サドルサイズ	φ50mm/肉厚約5mm
レバーサイズ(全長)	525mm
レバー取付後全長	1,080mm
レバー操作力	約63kg
油量	130cc
作動油	ISO VG15
使用温度範囲	20℃~45℃
本体サイズ(長さ×幅×高さ)	580mm×240mm×145mm
重量	16.4kg

※ 上記の仕様は、予告なしに変更することがあります。



4 ご使用方法

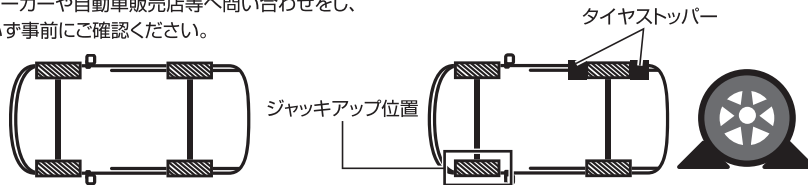
■ 使用前の準備

ジャッキアップする前に以下の準備をしてください。

【ジャッキアップ前の確認】

- 必ずジャッキポイントの位置でジャッキアップしてください。ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカーや自動車販売店等へ問い合わせをし、必ず事前にご確認ください。

- ジャッキアップする際は、必ずタイヤストッパーを下図のようにジャッキアップするタイヤの対角線上のタイヤにかけてください。



【準備物の例（別売）】



ジャッキスタンド(3t)
注文コード: 19263886など



タイヤストッパー(2トン用)
注文コード: 41446167など

⚠ 注意

- レバーを差し込んだらレバーを引っ張ってレバーが抜けないことを確認してください。もし抜ける場合は、レバーがソケットにしっかり差し込めているか再度確認してください。

1 ジャッキを揚げる場合

- ① 平らで固い路面にジャッキを置き、車両のジャッキポイントの位置にサドルを合わせます。
- ② レバー先端をリリースバルブに差し込み、レバーを時計回り(右)に回して、リリースバルブをしっかりと締め付けてください。(図1)
- ③ レバーソケットにレバーを差し込み、上下に動かしてサドルをジャッキポイントの近くまであげて、いったん停止します。
- ④ 荷重がサドルの中心にまっすぐかかることをよく確認します。(図2)
- ⑤ 確認ができたなら、再度レバーを上下に動かして車両をジャッキアップします。

図1

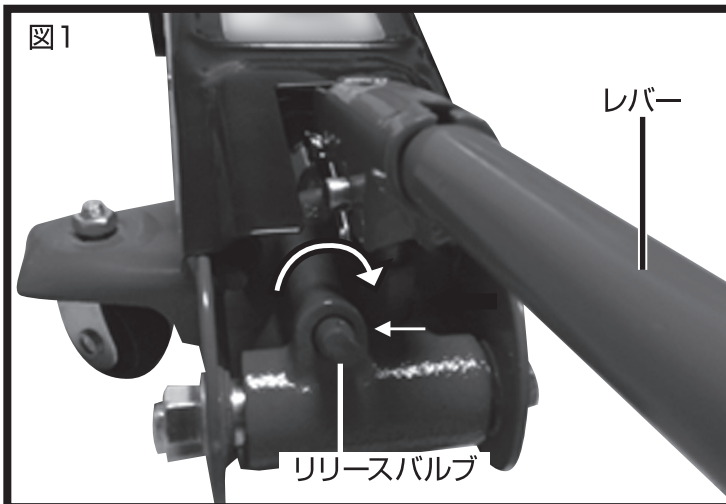


図2

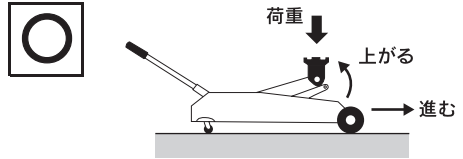
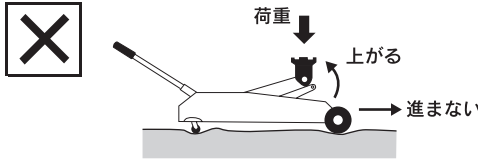


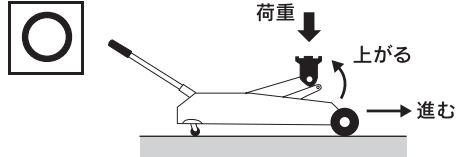
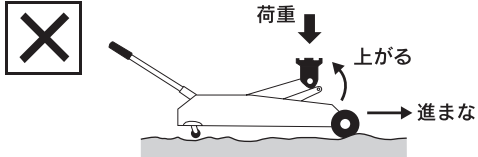
⚠ 危険

- 傾斜地や地面が軟弱な場所および平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では使用しないでください。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し**使用者が死亡したり負傷を負う危険があります。**また、傾斜地ではジャッキアップ中に**自動車が動きだして重大事故になります。**
- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。故障の原因になるだけでなく、ジャッキポイントの変形や荷重バランスの崩れによる事故の原因となります。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店などへ問合せし、必ず事前にご確認ください。
- 自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体の変形したり荷重バランスの崩れにより**重大な事故**につながります。


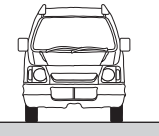

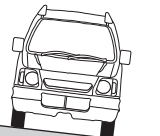


⚠ 危険

- ジャッキアップする際は必ず平らで固い路面の上で行ってください。傾斜地や凹凸のある地面、柔らかい地面では使用しないでください。
- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。
アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

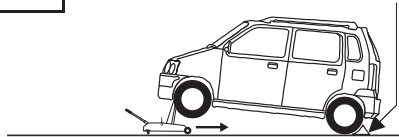

<p>● 強固な地面 (可)</p> 	<p>● 柔らかい地面はめり込んで進まない (不可)</p> 
--	---

<p>● 鋼板等の強固な板を敷いた場合 (可)</p> 	<p>● 凹凸な地面は前に進まない (不可)</p> 
---	---

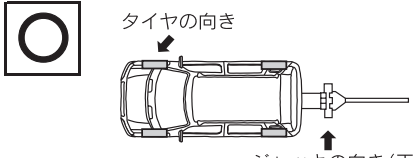
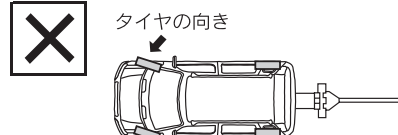
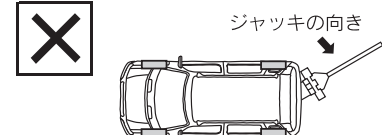
● 傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないでください。

  <p>水平で強固な場所 (可)</p>	  <p>傾斜した場所 (不可)</p>	  <p>傾斜した場所 (不可)</p>
---	--	--

- サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認してください。移動しないまま使用すると、サドルがジャッキポイントから外れ、自動車落下し**死亡事故や重傷を負う危険**があります。

<p>● 正しい方法</p> <p>※図のようにジャッキアップ反対側に車輪止めをしてください。</p> 	<p>● 危険な方法</p> <p>× 負荷点が移動</p> 
---	---

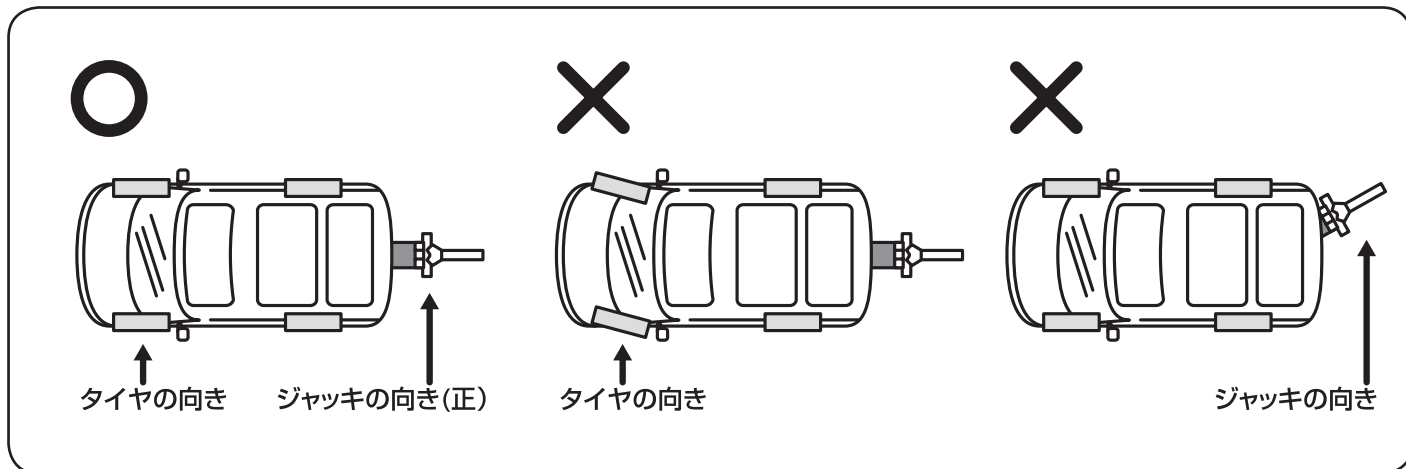
- ジャッキアップの際は、車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐにいれてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車落下し**使用者が死亡したり重傷を負う危険**があります。

<p>● 正しい向き</p>  <p>タイヤの向き</p> <p>↑ ジャッキの向き (正)</p>	<p>● 危険な向き</p>  <p>×</p> <p>タイヤの向き</p>	<p>● 危険な向き</p>  <p>×</p> <p>ジャッキの向き</p>
---	--	--

- サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一時停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置(荷重の中心がサドルの中央にかかる位置)にセットされていることを確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体の変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

⚠ 危険

- ジャッキアップの際は、車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し、使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。



⚠ 注意

- 重い荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- 自動車のエンジンをかけたまま使用しないでください。
- ジャッキアップは、自動車のサイドブレーキをかけ、シフトをオートマチック車の場合は「P」に、マニュアル車の場合は「ロー」または「バック」に入れて行ってください。
- 左右車輪をジャッキアップする場合は、必ず車輪止めを使用してください。
- レバーの上下操作はレバーをしっかり握り操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、レバーがはねあがり急に操作が軽くなって怪我をすることがあります。
- **パンタジャッキ用の(サイドジャッキアップ)のジャッキポイントではジャッキアップを行わないでください。**

2 一定の高さで停止する場合

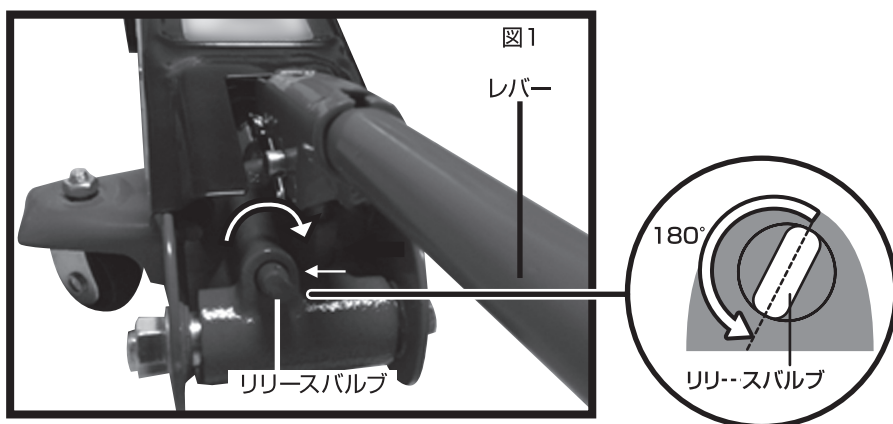
レバーの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

⚠ 危険

- **ジャッキアップした状態のまま車体の下には絶対入らないでください。**
車体の下に入って作業する場合は必ず十分な別売のジャッキスタンドをご使用ください。
- ジャッキアップした状態のまま自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。

3 ジャッキを下げる場合

レバーをリリースバルブに差し込み、反時計方向(左側)に、ゆっくり回りサドルを下降させてください。
その際、180°(半回転)以上回さないでください。
(図1)



⚠ 危険

- レバーを急に回さないでください。サドルが急激に降りると**自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負うおそれ**があります。

⚠ 注意

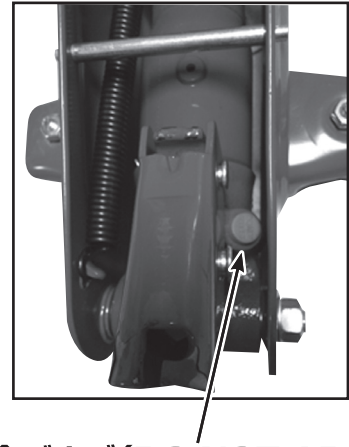
- 故障の原因になりますので、リリースバルブは3回以上回さないでください。

4 作業終了

作業が終了したらサドル、リフトアーム、フレームなどに付着した泥、オイル、グリス、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

5 安全バルブ(DO NOT ADJUST)について

フロアジャッキには、安全バルブが付いておりますが、このバルブはジャッキアップが適正な荷重になるように出荷時に調整されておりますので、絶対に触らないでください。(ジャッキに適正荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっています。)



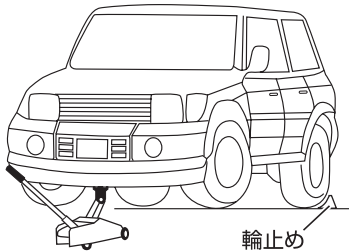
安全バルブ(DO NOT ADJUST)
※絶対に触らないでください

⚠ 注意

- 本製品をご使用の際は、必ず3トン以下の車両にてご使用ください。
- 車両をフロアジャッキで揚げたまま触らないでください。
- フロアジャッキで揚げたまま車両の下に、絶対に潜らないでください。大変危険です。
- **本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態のまま保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドをご使用ください。**
- 本製品は、業務用には使用しないでください。
- フロアジャッキを下げる際は、バルブを必ずゆっくりと回し、緩めてください。(急に回しますと、車両がいききに下がりますので危険です。十分ご注意ください。)

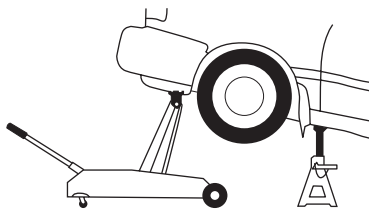
5 ジャッキアップ手順

1



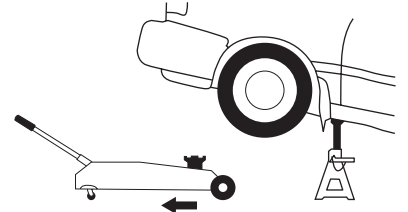
- ① ジャッキを使用してセンターでジャッキアップします。
- ジャッキポイントは必ず確認してください。また、必ず輪止めをしてください。

2



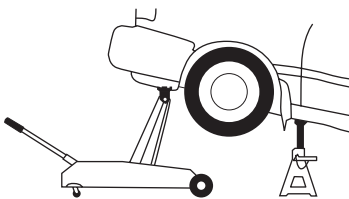
- ② ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを合わせて置きます。

3



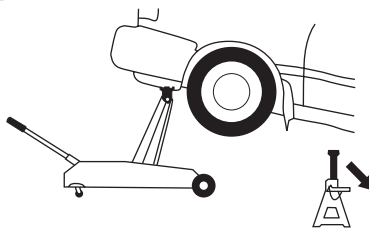
- ③ ジャッキを下げて移動させます。
- 車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認後作業します。

4



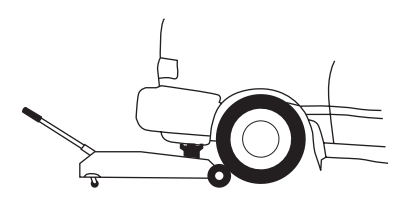
- ④ 作業が終わったらジャッキで車体を再度ジャッキアップします。

5



- ⑤ ジャッキスタンドを取り除きます。

6



- ⑥ ジャッキをゆっくり下げます。

⚠ 危険

- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

6 保守・メンテナンス

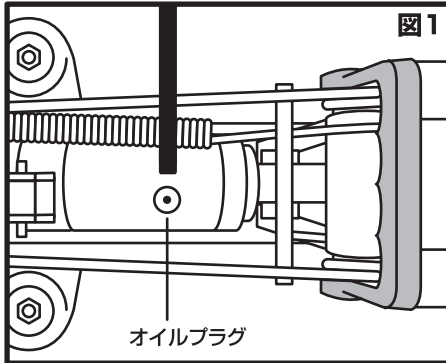
1 ジャッキのお手入れ

- ジャッキを使用しない時は、錆などによる動作不良防止のため、リフトアームおよびレバーソケットを最下部まで下げておいてください。
- ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
- オイルの量が減少した場合、下記ジャッキオイルの補充および交換参照の上、適量を補充してください。
- 頻繁にご使用になる場合、良好な状態を保つため、約1年毎にジャッキオイルを交換してください。
(下記2のジャッキオイルの補充および交換参照)
- 錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たる所および湿気の多いところには保管しないでください。

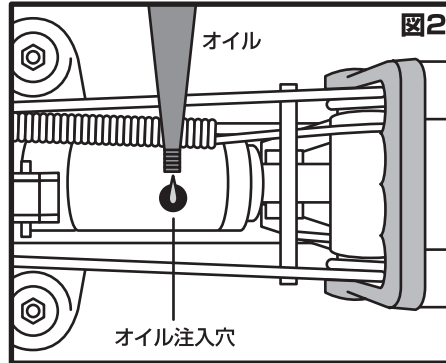
2 ジャッキオイルの補充および交換

- ① オイルプラグを14mmの六角ソケットとマイナスドライバーなどで外して、リリースバルブをゆるめます。(図1)
- ② オイルプラグの穴を下に向けて、古いオイルを排出してください。
- ③ ほぼ完全に排出した後、ジャッキオイル(別売)をオイルプラグの穴から入れすぎに注意して、少量ずつ注入してください。また、オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。(図2)
- ④ ジャッキオイルの適正量は、リフトアームを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで、約10mmの空間を設けた位置です。
- ⑤ ジャッキが途中までしか上がらない時は、ジャッキオイルの不足、またはエア抜きが完全にできていないことが考えられますので、ジャッキオイルを適正な量まで補充して、エア抜きしてください。
- ⑥ 補充作業が終了しましたら、オイルプラグを元の状態に戻してください。

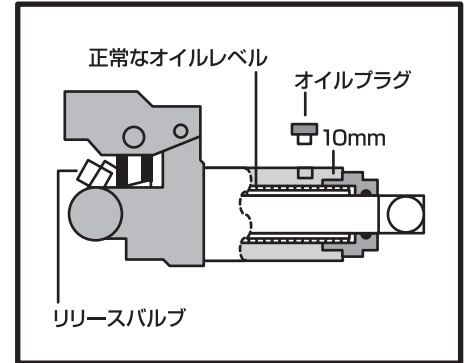
ジャッキオイルの補充方法



リフトアームを最降下させ、カバーを開き、平らな場所でオイルプラグを外してください。

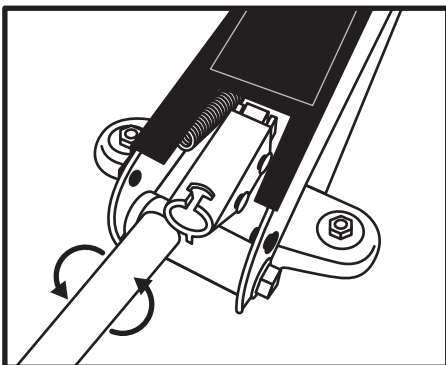


ジャッキオイルを少量ずつ注入してください。オイルの補充が終わりましたら、エア抜きを行ってください。

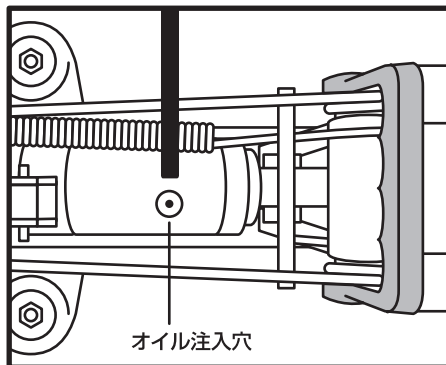


オイルをバルブの穴より10mmくらいまで補充してください。

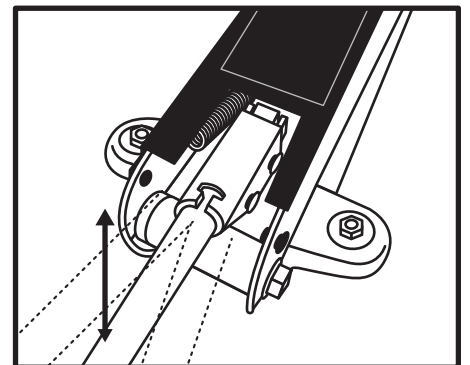
エア抜きの方法



レバーを左に回してリリースバルブをゆるめてください。(2~3回転)



オイルプラグを少しゆるめてください。



レバーをソケットに差し込み、上下いっぱいポンプ操作してください。(すばやく5~6回)その後、オイルプラグをしっかりと締め、カバーを閉じてください。

※ 正常に作動しない時は、2~3回くりかえし行ってください。

⚠ 注意

- 火気のある場所やその近くでオイル交換および補充をしないでください。
- エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が異なるため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないでください。
必ずジャッキ専用オイルを使用してください。作動油:油圧潤滑油(粘度:ISO VG 10 をおすすめします)
- ジャッキオイルを補充する際にオイルタンク一杯にジャッキオイルを入れるとジャッキが作動しません。
必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約10mmの空間を設けてください。

7 故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度取扱説明書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。それでも状態が変わりがない場合は、モノタロウお問合せ窓口へご相談ください。

症状	原因	対策
適正負荷でジャッキアップしない	オイル不足	オイル補充
	リリースバルブがしっかり締まっていない	リリースバルブを確実に締める
	油圧ユニットの故障	モノタロウお問合せ窓口へご相談ください
ジャッキが上で停止しない(自然に下降する)	オイル不足	オイル補充
	オイル漏れ	モノタロウお問合せ窓口へご相談ください
	リリースバルブがしっかり締まっていない	リリースバルブを確実に締める
ジャッキが最高位まで揚がらない	オイル不足	オイル補充
	油圧ユニットに空気混入	エア抜きをする
ジャッキが最下位まで下がらない	各部の錆	潤滑剤を注油
	リターンスプリングの錆、へたり	リターンスプリングの交換
	油圧ユニットに空気混入	エア抜きをする

8 関連商品

タイヤ
ストッパー



ジャッキスタンド

